

「地域金融推進レポート」(旧リバン・レポート)の概要

毎年、県内中小企業に金融に関するアンケート調査を実施し、調査結果による地域密着型金融推進の取組状況の現状把握と評価を目的としている。(平成20年度から実施、今回13回目)

ポイント1

メインバンクに対する評価・中小企業の現状
⇒ 2~8頁

- 金融機関(メインバンク)に対する中小企業の総合満足度は67.8点(昨年度67.5点)。
- 個別項目別満足度は、昨年度比較して概ね上昇。特に融資関連項目と情報提供が上昇。
- 融資又は条件変更の謝絶経験があると回答した中小企業の割合は4.8%(昨年度5.7%)。

- ・過去5年間の総合満足度(67.6点~69.8点)と比較すると横ばい傾向。
- ・昨年度より融資に関連する項目の満足度が向上しており、さらに、経営支援に関する項目の中で、各種融資制度等の情報提供が向上していることから、新型コロナウイルス感染症の影響を受けている中小企業への適切な融資対応や積極的な情報提供を実施してきたことが窺える。
- ・融資の謝絶経験割合は昨年度より低下しており、新型コロナウイルス感染症の影響が続く中、引き続き中小企業の金融円滑化が図られていることが窺える。

ポイント2

相互理解への取組状況
⇒ 9~16頁

- 金融機関(メインバンク)に情報提供(決算の概要、業務の状況、将来見通し、業界動向等)していると回答した企業は昨年度より上昇。(66.2%→67.6%)
- 試算表、資金繰り表、事業計画を作成していると回答した中小企業の割合は、昨年度より低下。

- ・試算表等の作成割合は、昨年度に比べ低下している。一方で、業績が上向きな企業ほど試算表等の作成割合が高い傾向にある。引き続き、試算表等の作成を事業者側に提案することや、作成支援を行うことが必要となる。

ポイント3

新型コロナウイルス感染症関連融資について
⇒ 17~19頁

- 新型コロナに関連したメインバンクからのヒアリングや情報提供の有無は、メインバンクからが最も多く46.8%、次いでメインバンク以外からが33.4%となった。
- 新型コロナ関連融資の利用状況は日本政策金融公庫の無利子融資が59.6%、次いで民間金融機関の無利子融資41.2%となった。
- 融資手続について、スムーズに手続ができたとの回答が92.8%となった。

- ・ヒアリングや情報提供があった中小企業の総合満足度が高い。
- ・新型コロナウイルス感染症の融資手続については、無利子化融資など、申込件数が多い中であっても、金融機関や関係機関による対応がスムーズになされていることが窺える。

提言

地域密着型金融の推進によりコロナ禍を克服した先の「選ばれる青森県」の実現へ向けて

⇒ 20頁

- ・現状：新型コロナウイルス感染症の影響により、中小企業の資金繰りが厳しい中、積極的な支援が行われている。
- ・未来：相互理解を深め、関係機関が一体となって経営支援等に取り組み、コロナ禍を乗り越えるとともに、コロナ後を見据えた取り組みを進め、地域経済の早期回復を図る。